

第4 明浜地域

1. 地域の現況

明浜地域は、市の南西部、宇和海沿いに位置します。地域を囲むように国道378号が、地域東部を東西方向に主要地方道宇和明浜線が走り、周辺他地域・他市と接続しています。

明浜地域に都市計画区域の指定はありません。

地域の中心に位置する高山地区及び宇和地域と接する俵津地区は、明浜地域の生活を支える拠点として、公共公益機能や生活を支えるサービス機能が一定立地しています。

明浜地域は、宇和海沿いの漁村集落から発展してきた地域です。水産業と柑橘栽培が盛んな地域であり、集落を囲むリアス海岸や狩浜地区における段々畑が特徴的な景観を形成しています。



■位置図



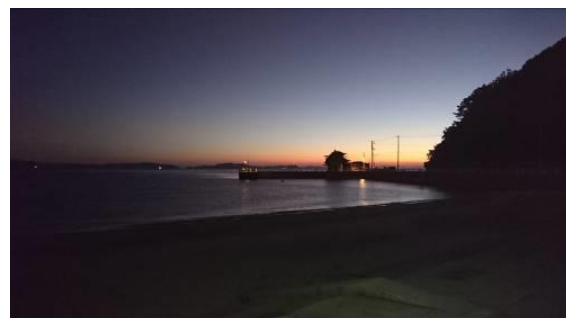
■狩浜の段々畑



■海岸での井戸端会議



■明浜の風景



■大早津海水浴場

【明浜地域 地域別構想 骨子案】

地域の主な施設や地域資源等		
道路	一般国道	国道 378 号
	主要地方道 ・一般県道	宇和明浜線、俵津三瓶線、宇和高山線
主要な施設		明浜支所、西予市明浜老人福祉センター、高山保育所、俵津保育所、JA ひがしうわ明浜支店、市民図書館明浜分館、西予市明浜歴史民俗資料館 等
地域資源		狩浜の段々畑、大早津の石灰産業跡地 等
都市計画		—

2. 地域の課題

- ・市全体と同様に、明浜地域でも高齢化・人口減少傾向が続いています。
- ・空き家・空き地が増加傾向であり、また、商業施設の撤退による空き店舗の発生もみられます。空き家・空き地・空き店舗の発生抑制、活用が必要です。
- ・耕作放棄地が増加しており、これを抑制し、段々畑の美しい景観を保全していくことが必要です。
- ・身近な生活道路の維持・充実が必要です。
- ・国道 378 号を民営路線バス（宇和島自動車）が運行していますが、運行時刻や便数の面から利用者が少ないため、公共交通の利便性向上と利用の促進を検討することが必要です。
- ・明浜地域は、宇和海に直接流出する河川の水系となっており、内水氾濫等を防ぐため、河川の浚渫や適切な維持管理が必要です。
- ・海岸部に立地する集落では、津波による甚大な被害が懸念されています。また、集落内は家屋が密集しており、火災等における被害が懸念されることから、災害時の安全性確保が必要です。
- ・明浜地域には、主要な幹線が国道 378 号のみとなっている地区があり、災害時に国道 378 号が寸断されると孤立化の恐れがある集落が存在することから、この対策が必要です。

3. 地域づくりの方針

地域づくりの方針では、明浜地域の将来像とまちづくりの方針を示すとともに、『こうなったら良いな』『こうなりたい』と思う「明浜地域の暮らし」の姿を展望します。

将来像		<p style="text-align: center;">『海辺と段畑のまち』</p> <p>■ 柑橘栽培を通して交流が盛んなまち</p> <p>■ 段々畑の風景を楽しめるまち</p>
まちづくりの方針		<ul style="list-style-type: none"> ・ 明浜支所周辺は、明浜地域の拠点として、生活利便施設、行政、文化施設等の維持を図ります。 ・ その他の小さな拠点（田之浜）は、日常生活に必要な機能の維持・確保を図るとともに、宇和中心拠点への交通ネットワークを維持・充実します。 ・ 優良農地や集落の保全に努め、田園景観を維持します。 ・ 狩浜の段々畑等、四国西予ジオパークの自然環境を保全します。
明浜地域の暮らし (展望)	観光	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>リアス海岸</u>と段々畑が作る景観を見るため、多くの観光客が訪れている。 ・ 夏は、あけはまシーサイド<u>サンパーク</u>で海水浴を楽しむ市民や観光客が増えている。 ・ また、柑橘栽培や加工品の販売施設が整備され、多くの観光客が訪れている。
	買い物	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各小さな拠点に日用品の販売を行う商店があり、毎日の買い物には困らない。 ・ 以前は宇和島市へ行っていた週1回程度の大きな買い物には、宇和地域に整備されているショッピングセンターへ家族で訪れ、<u>買い物を楽しんでいる。</u>
	文化・教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の祭り（<u>かつぱ MATURI 等</u>）には多くの住民が参加し楽しんでいる。 ・ 年に1～2回程度、西予市文化会館や<u>俵津文楽会館</u>で行われるコンサートを鑑賞している。
	働く場	<ul style="list-style-type: none"> ・ 柑橘栽培や加工品のブランド化が成功し、全国各地へ販売するため、広く従業員を雇用している。
	医療・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宇和地域の西予市民病院までは、地域で支えるバスが各地区を結び、お年寄りも気軽に通院出来るようになっている。

4. 部門別まちづくりの方針

全体構想の「部門別・まちづくりの方針」の体系に基づき、各地域で具体的に実施する都市計画・まちづくりの施策を位置付けます。

1) 土地利用

(1) 集落・農地ゾーンの整備方針

①高山地区及び俵津地区の整備

- ・高山地区及び俵津地区は、明浜地域の中心となる拠点として、公共公益機能や生活を支えるサービス機能等の充実・整備を図ります。
- ・高山地区では、明浜支所の移転新築、施設の充実を図るとともに、支所を中心に生活サービス施設の維持を図ります。
- ・明浜支所の移転新築において、施設や周辺道路のバリアフリー化、ユニバーサルデザインに努めます。

②集落環境の整備

- ・明浜地域の集落は、海岸部に立地する漁村集落が発展したものであり、比較的密集した住宅地が形成されています。既存集落において、生活道路の維持・管理、小型合併処理浄化槽の設置促進等により、居住環境の整備を推進します。
- ・海岸沿いの既存集落は、津波による被害が想定されています。この地区においては、ハード対策・ソフト対策の両面から、災害に強いまちづくりを推進します。
- ・防災・減災対策を十分に講じながら、既存集落で増加しつつある空き家・空き地の発生抑制、活用対策に努めます。

③小さな拠点の整備

- ・公民館（集会所）や旧小学校等を核に、旧小学校エリアに設置する地域づくり団体が主体となって行う小さな拠点づくりを支援し、市民と協働で必要となる生活サービス機能の維持・確保について検討します。
- ・明浜地区の小学校再編に伴う、学校施設の新築・改修に努めるとともに、休校・廃校となった校舎は、企業や住民団体による利活用を促し、地域の活力向上につなげていきます。
- ・明浜小学校と明浜中学校の統合を検討します。（記載不可？）
- ・手上げ型交付金制度を活用し、小さな拠点等において、市民が主体となった地域づくりを支援します。

(2) 森林・河川・湖沼ゾーンの整備方針

- ・森林や河川、湖沼、海岸など、明浜地域の豊かな自然の適切な保全と活用を図ります。

2) 都市施設

(1) 道路・交通ネットワークの整備方針

①道路の整備

ア) 広域連携軸の整備

- ・一般国道は、本市の広域連携軸を構成しており、国や県と連携しながら、市内外、さらには県外との連携強化に向けて整備を促進します。
- ・国道 378 号の改良を継続して要望・実施するとともに、主要幹線道路を適切に維持します。

イ) 拠点連携軸の整備

- ・拠点間を結ぶ主要地方道は、本市の拠点間連携軸を構成しており、引き続き県と連携して機能維持を図るとともに、優先的に整備すべき主要地方道を定め、整備を促進します。
- ・主要地方道宇和明浜線は、臨海部と内陸部をつなぐ路線として、緑地の保全や歩道の整備等を検討します。

ウ) 地域間連携軸の整備

- ・一般県道は、本市の地域連携軸を構成しており、引き続き県と連携して機能維持を図るとともに、優先的に整備すべき県道を定め、整備を促進します。

エ) 生活道路の整備

- ・避難路や防災上重要な市道等の主要な市道、地区の幹線道路など、道路の適切な維持管理を図ります。
- ・市民のニーズや財政状況を見極めつつ、優先的に維持・管理する路線や整備する路線を定め、維持・管理及び整備を推進することにより、日常生活の利便性の向上に努めます。

オ) 歩道の確保

- ・歩行者の安全な通行を確保するため、主要な道路において歩道を整備中であり、引き続き歩道の整備を推進します。
- ・また、国道 378 号沿いの海浜部において、遊歩道の整備を検討します。

②公共交通網の構築

- ・新たに策定した「西予市地域公共交通網形成計画」に基づき、市内のすべての集落からの日常的な「おでかけ」を確保するための公共交通を確保します。
- ・公共交通を地域・利用者・市民で支える意識を醸成し、公共交通の利用を促進します。
- ・主要な交通結節点での乗り継ぎの円滑化、スクールバスの活用など、公共交通のさらなる改善・利便性の向上に向けて、市民とともに検討を行います。

(2) 公園・緑地の整備方針

- ・あけはまシーサイドサンパーク等の既存施設をはじめ、既存の公園・広場を活用しながら、身近に利用できる公園・広場を確保します。
- ・明浜地域の海岸・海浜は地域の憩いの場となっており、「四国西予ジオパーク」の取

組と一体となって、公園・緑地として利用できるよう、海岸・海浜の保全整備を図ります。

(3) 下水道・河川の整備方針

①下水道の整備

- ・漁村集落等において、住環境の改善と公共用水域の保全を図るため、小型合併処理浄化槽の設置促進等に努めます。

②河川の整備

- ・明浜地域は、宇和海に直接流出する河川の水系となっており、内水氾濫等を防ぐため、河川の浚渫や適切な維持管理に取り組みます。

3) 自然・景観

(1) 自然の保全・整備の方針

①水辺の保全・整備

- ・海域は、稚魚放流活動の支援により漁業資源の保全・確保を図るとともに、小型合併処理浄化槽の設置等を促進し、水質汚濁の防止を図ります。
- ・臨海部においては、「あけはまシーサイドサンパーク」の拠点形成を推進するとともに、マリンスポーツの推進やアウトドアイベントの開催等によるレクリエーション機能の強化を図ります。
- ・県営治山事業の推進、小型合併処理浄化槽の設置促進等により、河川の水源涵養機能の増進と河川環境の維持・保全に努めます。
- ・老朽ため池の整備、管理者不在で防災上問題のある農業用ため池の廃止に取り組みます。

②農地の保全・整備

- ・明浜地域の農地としては、傾斜地に大きく広がる柑橘園が中心であり、市街地以外の代表的な土地利用となっています。
- ・柑橘園として維持管理されることが土砂災害の防止にもなっていることから、営農活動の支援や地域活動の支援、耕作放棄地の対策を行うとともに、「四国西予ジオパーク」の取組と一体となって、石積みや段々畑、果樹園の保全・育成に努めます。
- ・市民と協働し、農業の担い手や経営体の育成と経営規模の拡大支援、集落営農の促進、農地流動化対策等に取り組みます。

③森林の保全・整備

- ・森林は、傾余地に広がる柑橘園の上部の尾根線一帯に分布しています。適期伐採による森林機能の保全を図るとともに、路網整備により適切な森林の整備に努めます。
- ・集落の背後に位置する里山の保全・育成を図るものとし、間伐等の適切な管理に努めます。

④自然の活用

- ・あけはましーサイドサンパークや温泉施設、四国西予ジオパークの「サイト」等、観光資源と一体となって自然資源の活用を図ります。

(2) 景観の保全・整備の方針

①自然景観の保全・整備

- ・森林、海浜・河川、果樹園等は、本市の景観の骨格となることから、「四国西予ジオパーク」の取組や市民と協働した活動により、適切に保全・整備を図ります。
- ・狩浜地区における石積みの段々畑がつくる景観を守り、継承していくため、景観法に基づく「(仮)狩浜地区景観計画」の策定を検討します。
- ・漁村集落においては、まとまった住宅地区と周辺の果樹園を海域や山地が取り囲み、良好な景観が形成されています。これらの景観を市民と協働して保全するとともに、景観に調和した居住環境の整備を推進します。
- ・地域ならではの景観の形成に向けて、四国西予ジオパークの「サイト」等、周辺の景観保全について検討を行います。

4) 防災・減災

①防災・減災体制の確立

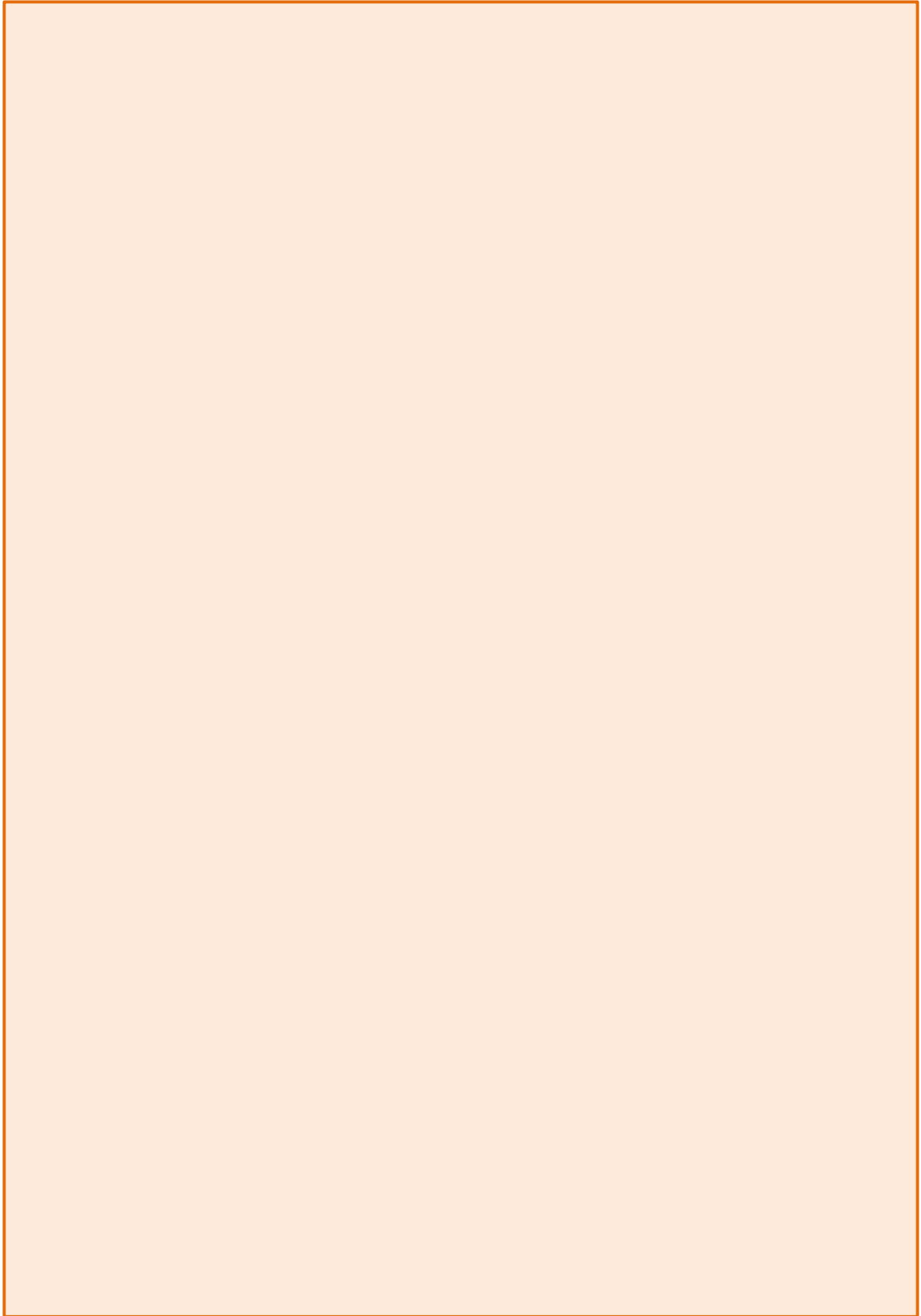
- ・自然災害の防止については、防災施設の整備と災害時における避難体制の確立が重要であり、避難路・避難場所等の整備を図るとともに、自主防災組織の活動を支援します。
- ・総合防災マップの周知による防災意識の啓発、防災訓練の充実化など、市民と連携し、防災・減災対策に努めます。
- ・災害の発生時に備えて、他地域や近隣市町と連携した広域的な避難の受入れや応援について検討します。

②集落の防災対策

- ・明浜地域では、海岸部に立地する漁村集落が発展して現在の集落が形成されており、津波による甚大な被害が懸念されていることから、災害時の安全性確保が課題です。
- ・津波から短時間で避難が可能となる避難路や避難場所の確保を図ります。
- ・また、集落内では住宅密集地が多く分布しており、道路の確保・整備、建築物の耐震・耐火構造化や老朽住宅の改修・更新の促進により、地震や火災による宅地災害の防止に努めます。
- ・さらに、自主防災組織の確立と活動支援により、日頃からの防災意識の向上を図るとともに、万が一の被災に備えて、市民と協働した事前復興計画の策定等を検討します。
- ・主要な幹線が国道 378 号のみの宇和海沿いの集落は、災害時に孤立化する恐れがあり、万が一に備えて、集落が孤立化した場合の情報通信や避難・救助手段の確保、孤立集落への支援物資の供給等について、あらかじめ検討を行います。

③土砂災害の防止

- ・土砂災害警戒区域・特別警戒区域や急傾斜地崩壊危険区域など、土砂災害が懸念される区域等については、開発の抑制とともに、必要な土砂災害防止施設の整備を推進します。



■明浜地域 整備方針図